

# 大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

2018 (平成 30) 年 第 20 週 (5 月 14 日～5 月 20 日)

## 今週のコメント

～A群溶血性レンサ球菌咽頭炎～手洗い・うがいが重要

### 定点把握感染症

「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 増加」

第 20 週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は 2,902 例であり、前週比 9.4%増であった。定点あたり報告数の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、突発性発しん、水痘の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 8.9、3.0、0.9、0.6、0.4 であった。

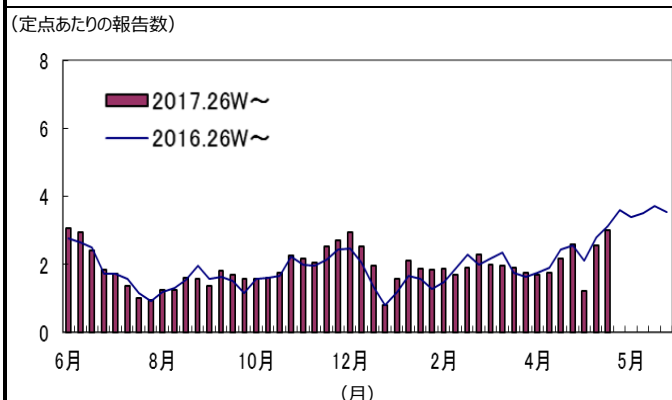
感染性胃腸炎は前週比 9%増の 1,761 例で、南河内 15.6、中河内 12.7、北河内 10.6 である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 17%増の 591 例で、南河内 5.4、大阪市南部 4.0、堺市 3.5、豊能 3.1 であった。

咽頭結膜熱は 17%増の 170 例で、大阪市東部 1.3、南河内 1.2、泉州 1.0 である。

水痘は 7%減の 87 例で、大阪市西部 0.8、泉州・中河内 0.6 であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



感染性胃腸炎

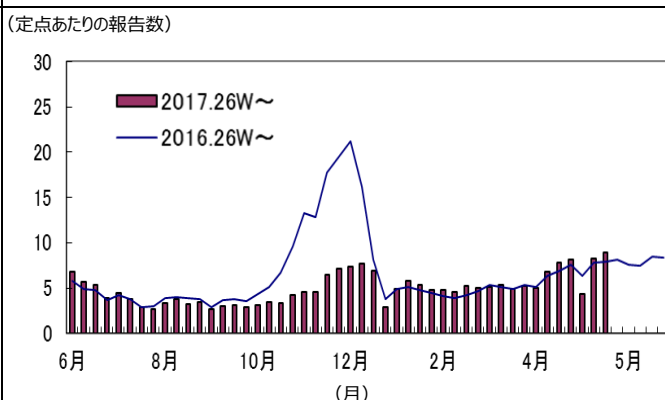


表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向 (2018 (平成 30)年 第 20 週 5 月 14 日-5 月 20 日)

第 20 週 の順位	第 19 週 の順位	感染症	2018 年 第 20 週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2017 年 第 20 週の 定点あたり 報告数	2018 年 第 20 週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	8.9	9%増	7.9	1 歳_16%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.0	17%増	3.1	5 歳_14%
3	4	咽頭結膜熱	0.9	17%増	0.8	1 歳_39%
4	3	突発性発しん	0.6	22%減	0.6	1 歳_54%
5	6	水痘	0.4	7%減	0.4	10-14 歳_15%

## 第 20 週のコメント

～腸管出血性大腸菌感染症～ 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

### 全数把握感染症

#### 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の原因菌は、ベロ毒素を産生する大腸菌で、代表的なものは O(オー)157、O26、O111 がある。汚染飲食物を介する経口感染がほとんどで、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群を起こす場合がある。3-5 日の潜伏期において、激しい腹痛を伴う頻回の水様便の後に、血便となる（出血性大腸炎）。発熱は軽度で、多くは 37℃台である。有症者の 6-7%では、発症数日後から 2 週間以内に、重症の溶血性尿毒症症候群を発症する。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[感染症の話\(国立感染症研究所\)](#)

(累積報告数)

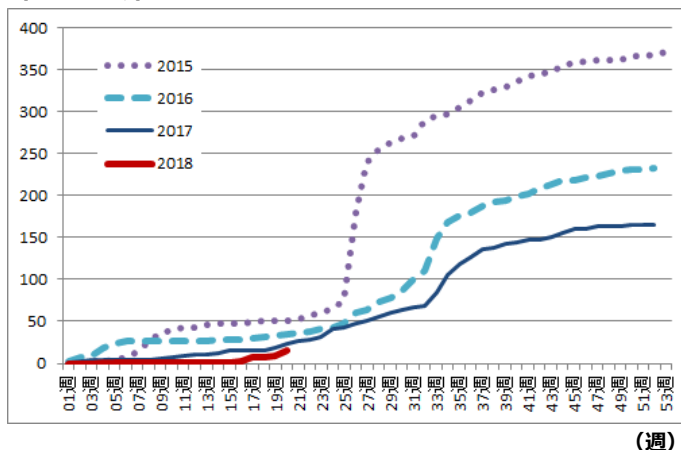


表 2. 大阪府全数報告数（2018(平成 30)年 第 20 週 5 月 14 日 - 5 月 20 日）

\* ) 注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

	疾患名	報告数	府内市町村								府内累積報告数	
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市		
3 類感染症	細菌性赤痢	1							1			8
	腸管出血性大腸菌感染症	6	1						1	2	2	15
4 類感染症	A 型肝炎	1									1	14
	レジオネラ症	1								1		21
5 類感染症 (麻しん、風しんは除く)	アメーバ赤痢	2									2	31
	後天性免疫不全症候群	2									2	47
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1		1								29
	侵襲性肺炎球菌感染症	4					1	2		1		136
	梅毒	15			1			1	1	12		419
	百日咳	3			1	1				1		108
結核 (2018 年 3 月分)	結核 新登録患者数：168 名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 67 名) (府内累積報告数 427 名、内 肺・喀痰塗抹陽性 171 名)											
麻しん、風しん	風しん：1 名 (大阪市 1 名、府内累積報告数 1 名)											

(2018 年 5 月 22 日 集計分)